



## 「うちゅう」30年

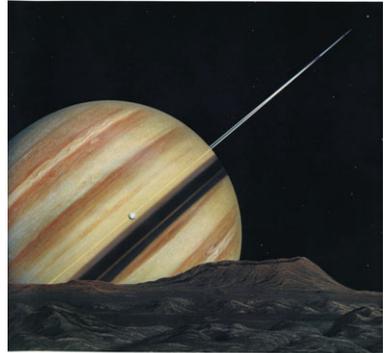
月刊「うちゅう」が創刊されたのは、今から30年前、1984年4月のことです。当時はまだ、大阪市立電気科学館の時代で、「うちゅう」は「星の友の会」発足とともにその会誌として発刊されました。

1984年といえば、ロサンゼルスオリンピック開催、福沢諭吉・新渡戸稲造・夏目漱石の新紙幣発行、グリコ・森永事件、マッキントッシュ発売、三陸鉄道営業開始(偶然ながら、放送中のNHKの連続テレビ小説でも時々取り上げられていますね)といった時代でした。

以来30年間、友の会会員の皆さんを始め、歴代の科学館の職員、今は重鎮となられた若き日の先生方など、いろいろな方々に記事を書いていただきました。意外なところでは、漫画家の手塚治虫さんにも書いていただいたこともあります。「うちゅう」の主な記事のタイトルは、友の会ホームページに掲載していますので、一度ご覧下さい。

今年度は「うちゅう」30年ということで、大阪市立科学館、およびその前身である電気科学館が歩んできた歴史を振り返ってみたいと思います。これから来年の3月まで、「うちゅう」、科学館、科学の進歩を振り返りどのような出来事があったのか、記事を掲載していく予定です。

江越 航(科学館学芸員)



大阪市立電気科学館 星の友の会

創刊号の表紙

広 告